

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 017040832 | | |
| 法人名 | 有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生 | | |
| 事業所名 | グループホーム蔵発寒 きさらぎ館 | | |
| 所在地 | 札幌市西区発寒2条2丁目3番20号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月13日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年2月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちのグループホームは、ホームにこもることなく出来るだけ外へ出ることがモットーでした。コロナ禍のため外出がままならない状況ですが、室内でお弁当を食べて気分転換をしたり、体を動かすレクリエーションを増やし、楽しめるよう臨機応変に対応出来る所がアピールしたい点です。例えば、遠足や行楽に行つたつもりで、利用者さんのお好きなメニューで、手作り弁当を食べたり、出張ラーメンや出張お寿司で喜んでもらいました。理念の中には「利用者さんの本当の気持ちを理解しよう」「一人一人の思いをくみ取って笑顔で声をかけよう」と掲げ、毎月、不適切なケアについての検討会を行い、虐待防止、チームケアの構築を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JivogyoCd=0170400832-00&ServiceCd=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット |
| 所在地 | 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401 |
| 訪問調査日 | 令和3年11月12日(金) |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・運営理念をもとに、毎年事業所、ユニットの目標を定め、実践につなげている。 ・毎週、月曜日の朝、申し送り後スタッフ全員で理念を唱和している。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | ・コロナ禍により町内会行事である、老人クラブや女性部の会などがすべて中止になり、地域との交流が激減している。 ・近所の方々とは、お花を見せていただいたりして交流している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や徘徊模擬訓練等を通して地域の方々へ認知症の理解や支援方法を発信していたが、書面会議等で十分な地域貢献はできていない。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により、運営推進会議は書面会議となった。年度末に構成員の方々へアンケートをとり、意見をサービス向上に活かしている。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 札幌市からはメール、FAXなどで連絡をしている。今年度はPCR検査やワクチン関係の連絡、連携が多かった。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・職員研修を年2回実施し、身体拘束をしないケアについて理解できる機会を設けている。 ・毎月、主任会議時、「身体拘束廃止委員会」を開き、各ユニットの現状を報告し、改善に向けた話し合いを行っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・職員研修を年2階実施し、虐待防止について学ぶ機会を設けている。毎月、カンファレンス時、不適切なケアがなかったかなどの話し合いをしている。 ・Zoomを利用して、外部の研修にも参加している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 親族のいない入居者については「後見人」の必要性を話し合い、利用できるように支援した。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、小まめに不安や疑問点を聞き、事例なども紹介しながら、不明な点を出しやすいように工夫をしている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 2ヶ月に1回運営推進会議を開いているが、コロナ禍のため、書面会議になっており、リアルタイムな意見を反映できていない。(年度末にアンケートにより意見を集約している) | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | コロナ禍のため、リモートによる会議で意見・提案した。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護福祉士、介護支援専門員など資格取得時の手当では、実績に応じて評価してくれている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各人のスキルに合わせて、研修や講習会を受けられるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 「札幌市西区管理者連絡会議」や「徘徊模擬訓練」などで横のつながりがあったが、コロナ禍のため、中止になっている。必要時、電話で連絡をとりあっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・本人や家族に話しを聞き、できるだけ入居前の生活と変化がないように心かけている。 ・本人の表情にも気を配り、安心して生活できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族状況については、管理者やケアマネから情報を得たり、直接家族に話しを聞き、要望を確認している。入居後、心配しないよう、LineなどSNSを活用し、様子を伝え信頼関係を構築している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | これまでの経験や、認知症の知識など総動員しながらアセスメントを行い、必要な支援を見極め支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 運営理念を心に刻み、多くの事を入居者から学ぶことができ、支え合う関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と信頼関係を作り、家族の思いを把握し、職員と共に本人を支え合っている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居年数の長短で差がある。入居年数が短い方は馴染みの美容室などに行くこともある。入居年数が長くなると、認知機能、身体機能が低下し、馴染みの関係の支援が困難なこともある。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の好き嫌いなどを把握している。仲よし同士、散歩に出かけたり関わり合えるようにしている。車イスの方に声をかけたり、利用者同士支え合う場面もみられる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 「退居後、家族会」を数年開催していたが、現在は行っていない。退居後、不要なバスタオルなど持ってきてくれる家族もいる。相談や支援には至っていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎月2回カンファレンスを行い、本人の思いの把握に努め、職員全員が共有している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にセンター方式を記入していただいている。面会時などに、昔の生活ぶりなどきくこともある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの24時間の生活記録を記載し、一日の過ごし方の把握に努めている。有する力については日常生活の中で、「掃除ができる」「縫い物ができる」など把握している。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 話し合いを通して変更や改善策があれば、その都度反映しながら、介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、職員は全員の個人記録に入力し、その場にはいない職員は記録記録を読んで把握し、情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 行きたい所ややりたい事など本人や家族の要望に対して時間に関係なく、対応できるように管理者と話し合い、取り組んでいたが、コロナ禍のため、中断している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎月の老人クラブや散歩しながらの見守り隊などがあるが、コロナ禍のため、活動は中止している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問診療を利用している。緊急の際の対応や家族への説明、紹介状など適切に医療が受けられるように支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 何か異変を感じた時は、看護職員に報告している。場合によっては看護師から医師に連絡し適切な医療が受けられるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は、どのような状態であれば、グループホームに戻れるのかなど看護師やソーシャルワーカーなどと話し合っている。様々な医療機関を利用しているので、関係づくりまでには至っていない。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 食事がとれなくなってきた、体重が減ってきたなどがみられた場合は早い段階から終末期の話し合いを行い、方針を共有している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に研修を行っており、心肺停止時の心肺圧迫は職員全員が対応できるようにしている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月、避難訓練を行っており、昼夜問わず対応できる体制をとっている。9月の避難訓練は地域の方が参加していたが、コロナ禍のため、ここ2年は参加はない。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 認知症であっても尊厳を尊重する言葉かけや対応に気をつけている。排泄介助などでもプライバシーを損ねないよう心がけている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | まずは本人はどう思っているのか聞くようにしている。自己決定しやすいように、○と△ならどっち？など工夫している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務優先ではなく、利用者優先を大切にして、対応したり、声かけなどしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 誕生日やクリスマスに洋服をプレゼントしたり、月1回理美容を受けられ、その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の盛り付けや下膳、食器拭きなどお手伝いをしてもらったり、月に1回利用者さんに食材を切ったり、調理してもらう機会をつくっている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の食べる量、水分量は記録で把握されている。管理栄養士が月1回栄養指導に入っているため、栄養に関する相談をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアに力をいれている。毎食後、口腔ケアを行っている。一人ひとりの残存歯の状態により、歯間ブラシ、タフトブラシ、デンタルフロス、モンダミンなど使いわけてケアしている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 布パンツの方が3名いる。リハビリパンツの方は5名(1名は夜間テープ止め使用)。失禁しないよう、生活の節目節目で、トイレの声かけをしている。1名以外は自立している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できるだけ下剤に頼らない排便コントロールを目指している。水溶性の食物繊維とイヌリンの入ったサンファイバーを味噌汁に入れている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 要介護5の利用者をできるだけ、浴槽に入れるようにしている。ある程度順番で、職員の都合で入浴している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後、昼寝をする方もいる。遅く寝る方、遅く起きる方など一人ひとりの生活習慣に合わせて休んでもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全員の薬状を綴っており、職員はだいたい把握している。血圧が低い日が続くと、高血圧の薬が効きすぎているか、便失禁が続けば、下剤が効きすぎているかなど考えている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | お出かけが好きな人にはできるだけ外出する日を設けたり、コーヒーを入れるのが得意な方は職員にコーヒーを入れてもらったりしている。縫い物が得意な方は布巾縫いをしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 利用者さんが行ってみたいと言われたところにドライブに行ったりしていた。しかし、コロナ禍によって外出は自粛している。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一緒に買い物に行き、利用者本人がレジでお金を払ったりしていた。しかし、コロナ禍のため、外出を自粛しており、行っていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 面会が制限されているため、テレビ電話をしたりしている。お手紙がきたら、お礼の電話やはがきを本人が出している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 換気のため、寒くならないようにしている。季節がわかるように、壁に飾りなどをしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファを置いて利用者さんが座りやすいようにしている。仲のよい利用者同士、隣に座ってお話することもある。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 仏壇を置いたり、お花を飾ったり、本人が居心地よく過ごせるようにしている。(お花は家族がもってきてくれる。) | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 物の置き場所を変えず、自分でできるようにしている。廊下に物を置かず、広いスペースを取り、つまずいたりしないようにしている。 | | |